

令和7年度 キッズフロンティアⅢ番館(児童発達支援)自己評価総括表

○保護者評価実施期間	2026年3月1日 ～ 2026年3月16日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	14
○従業者評価実施期間	2026年3月1日 ～ 2026年3月16日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	感覚統合や身体づくりを重視した活動を日常的に取り入れ、お子さまの発達に合わせた丁寧な支援を提供しています。	専門的知見を持つスタッフが中心となり、個々の感覚特性に配慮した環境設定や活動を工夫しています。	感覚支援に関する研修や外部研究会への参加を継続し、実践と知識のアップデートを図ります。
2	保護者への定期的なフィードバックを丁寧に行い、家庭での関わり方についての情報提供やアドバイスを積極的に実施しています。	個別面談や電話での相談対応を柔軟に設け、保護者が困ったときに気軽に相談できる関係性を築いています。	オンライン面談の選択肢を設けるなど、保護者が参加しやすい相談体制の充実を図ります。
3	スタッフ間のチームワークが良く、日々の引継ぎやミーティングを通じて情報共有が円滑に行われています。	困難なケースについては複数のスタッフで協議し、多角的な視点から支援方針を検討する文化が根付いています。	チームの強みをさらに活かすため、スタッフそれぞれの得意分野を明確化し、専門性を組織として活用する仕組みを整えます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援計画の作成や更新が、担当者の負担に偏っており、全スタッフが計画内容を深く理解した上で支援に当たる体制が十分でない。	忙しい日常業務の中で計画書の読み合わせや説明の時間が確保しにくく、スタッフごとの理解度に差が生じやすい。	計画書の要点を抜粋したカードを作成し、支援前に確認できる仕組みを設けることで、全員が共通の方針で動けるようにする。
2	保護者からの急な連絡対応や相談に追われ、スタッフが計画的に休憩や研修を取りにくい場面がある。	相談対応の時間帯や担当者のルールが明文化されておらず、特定のスタッフへの負担集中が起きやすい。	相談対応のシフト担当制を導入し、全スタッフが公平に業務を分担できる体制を構築する。
3	療育プログラムの内容が固定化しやすく、新しいアプローチや活動を試みる機会が少なくなっている。	プログラム改善のためのアイデア出しや検討会が定期的に設けられておらず、現状維持になりがちな土壌がある。	月1回のプログラム検討会を設け、スタッフ全員がアイデアを持ち寄り、新しい活動を試行できる仕組みを作る。